

令和元年度全国及び岡山県学力・学習状況調査 結果と今後の取組について【学校版：様式】

1 津山市重点取組

津山市立西小学校

津山市重点課題	誰が(Who)	何を(What)	いつまでに(When)	どのように(How)	達成される児童・生徒像(数値目標)
<b>学びのサイクル(津山モデル)</b> 授業改善と家庭学習をつなぐ つまづき解消	①学力向上担当 ②担任 ③担任・教育支援員	①宿題の提出状況の改善 ②自主学習の取り組みの改善 ③放課後学習の取り組み	①年間を通じて ②年間を通じて ③年間を通じて	①提出状況に応じて、保護者に通信、電話連絡、個人懇談等で協力要請を行う。 ②家庭学習の時間と内容が充実するよう、学習時間を書き込んで意識させ、自主学習のよい取り組みを全校に紹介する。 ③担任・教育支援員による放課後学習を実施し、つまづきを解消する。	全学年宿題提出率100% 家庭学習を1時間以上する(5・6年生)70%
<b>生活習慣の改善</b> スマホ対策と家庭学習の充実 (児童会・生徒会や家庭等)	①教務 ②生徒指導担当 ③担任	①家庭でのメディアとの付き合い方 ②アンケートでの実態把握と家庭や地域との実態交流 ③ネットやスマホとの付き合い方について実態交流を行う	①年間を通じて(各学期) ②年間を通じて ③年間を通じて	①メディアコントロール週間の取り組みを毎学期行い、結果を各家庭に配布する。 ②児童アンケートを実施した結果を地区懇談会で保護者や地域の方々に情報提供する。 ③スマホ・ゲームの時間や使い方のルールを保護者アンケートで調査し、よい取組を紹介する。	メディアコントロール週間の取組提出率100% スマホ・ゲーム等の使用時間2時間以内30%

2 全国及び岡山県学力・学習状況調査 結果及び成果と課題

調査結果について(調査結果において明らかになったこと)

【学力状況調査の結果】 全国(小学校)	【学習状況調査の結果】 <全国(6年生)>
<p>○全国平均正答率と比べると、国語については同程度、算数については下回った。</p> <p>○国語では、「話すこと・聞くこと」の正答率が本校66.7%(全国72.3%)と5.6%低く、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の正答率は、本校58.2%(全国53.5%)と4.7%高い。</p> <p>漢字を文の中で正しく使う。「対象」本校64.7%(全国41.9%)「関心」本校52.9%(全国35.6%) 17~22%高いことわざの意味を理解して、自分の表現に用いる。本校58.8%(全国73%)</p> <p>目的に応じて質問を工夫する。本校55.9%(全国67.4%)</p> <p>○算数では、どの領域も全国平均より低く、「量と測定」の領域で本校38.2%(全国52.9%)と正答率が14.7%低い。</p> <p>棒グラフから資料の特徴や傾向を読み取ること(本校100%-全国95.2%)や、加法と乗法の混合した整数と小数の計算(本校64.7%-全国31.1%)では、全国平均を上回り、無解答率も0%であった。</p> <p>場面の状況から単位量当たりの大きさを基に、求め方と答えを記述し、その結果から判断できる。(本校44.1%-全国62.6%)18.5%低い示された場面において、複数の数量から必要な数量を選び立式することができる。本校52.9%-全国68.6%)15.7%低い</p> <p>県(小学校【3年~5年】)</p> <p>○各学年の国語、算数の正答率が全国平均正答率を下回り、標準スコア50を下回っている。</p> <p>○国語では、各学年で、「書くこと」が全国平均を下回っている。</p> <p>「言語についての知識・理解・技能」の観点、特に「漢字を読む」内容では、標準スコア50に近い数値が出ている。</p> <p>○算数では、解答形式が「記述」のものでは、正答率が全国平均を下回っている。</p> <p>基礎・活用の「活用」区分でも、全国平均を下回っている。</p>	<p>○「学校の授業以外での学習時間」が1日1時間以上の児童の割合が6年生では70.6%で、全国平均(66.1%)より4.5%高い</p> <p>○「自分にはよいところがある」と思っている児童は73.6%で、全国平均81.2%に比べ7.6%低い。</p> <p>○「読書」が好きな児童の割合が全国平均に比べて4.5%高い。</p> <p>「読書の時間」が1日30分以上の児童の割合は58.8%で、全国平均(39.8%)より19%高い。</p> <p>「学校図書室や地域の図書館に週1~3回以上行く」児童の割合も全国に比べ15.2%高い。</p> <p>○「地域の行事に参加する」児童の割合は、全国平均を8.5%上回っている。</p> <p>「地域や社会をよくするために考えることがある」児童の割合は70.6%と、全国平均(54.5%)より16.1%も高い。</p> <p>○「家の人と学校での出来事について話をしますか」という項目に肯定的回答をしている児童(61.8%)が全国(77.4%)と比べ15.6%低い。</p> <p>○「先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれると思いますか」について肯定的回答(76.4%)は、全国平均(91.7%)よりも15.3%低い。</p> <p>○算数の授業で「新しい問題を解いてみたいと思う」「解き方がわからないときは諦めずにいろいろな方法を考える」児童の割合は、全国平均より14%低い。「もっと簡単に解く方法がないか考える」児童の割合(61.8%)は全国平均(82.1%)より20.3%低い。</p> <p>&lt;県(5年生)&gt;</p> <p>○「普段のテレビゲーム(スマホを含む)の使用時間1日1時間以上」と回答した児童の割合(65.4%)で、県平均(58.4%)より高い。</p> <p>○「テレビ等の視聴時間が1日3時間以上の児童の割合(41.3%)は県平均(26.4%)より高い。</p>

成果

<p>○朝学習で前学年の「漢字の読み書き」を含めた学習をすることにより、3年生以上で全国平均を上回り昨年度より向上した。</p> <p>○低学年ではペアを中心に、高学年ではグループを取り入れた活動で、学習に対する意欲や人の意見を聞いて自分の考えをもち、伝えようとする態度が育ってきた。</p> <p>○読書の習慣が身につけている児童が多い。</p> <p>○地域の行事(城西まるごと博物館フェア、じばこの会等)によく参加しており、多くの児童が地域に親しみをもっている。</p>
--

課題

<p>○低学年のうちは「たし算のくり上がり」や「ひき算のくり下がり」が理解できているが、学年が上がるにつれて、数が大きくなったり「小数」や「分数」になつたりすると応用ができにくい。</p> <p>○家庭学習の未提出児童が固定しがちであり、提出しにくい児童に対応した指導が必要である。</p> <p>○児童の自己肯定感を高める声かけや取組を積極的に行う必要がある。</p> <p>○授業の中でグループ活動を取り入れたが、学び合いが定着していない。</p> <p>○書く力を高めしていく必要がある。</p>
---

3 今後の取組

何を(改善すべきこと)	いつまでに(成果検証の期限)	どこまで(対象と達成目標の設定)	どのように(方策)	達成状況(12月末現在)	達成度	達成状況(年度末)	達成度	次年度への改善点・重点課題
児童の自己肯定感を高める	2学期末	児童アンケート「自分にはいいところがある」の肯定的な回答が80%を超える。	「グッドカードの取組」により、全教職員が児童のよいところをカードに書いて渡し、保護者と連携を取りながら児童への称賛の声かけを積極的にを行う。					
授業改善(書く力を高める)	3学期末	・授業で書く活動を増やす。 ・書く課題に週1回取り組み、提出率100%を目指す。	授業での振り返りにおいて、キーワードや字数制限の中でまとめる経験を増やす。朝学習や宿題で、日記や新聞記事を視写したり感想を字数制限して書いたりする課題に週1回取り組む。					
基礎学力の定着	3学期末	国語・算数の学期末テストにおいて、学年平均85点以上を目指す。	授業(委員会のない月曜日6時間目)や朝学習を複数体制で行う。弱点克服のために東書ライブラリ印刷の活用問題等を使用しながら間違い直しを徹底して直し切る習慣の定着を図る。					

※達成度 「S:目標を多量に上回った(100%達成)」「A:目標を十分達成できた(85%以上100%未満)」「B:目標を概ね達成できた(70%以上85%未満)」「C:目標をある程度達成できた(50%以上70%未満)」「D:目標をあまり達成できなかった(30%以上50%未満)」「E:目標を達成できなかった(30%未満)」

小中連携の取組

<p>○家庭学習の100%提出を目指す。</p> <p>○サマタイム同時スタート、同時終了。</p> <p>○授業の中に学び合いを取り入れる。</p> <p>○小中間による児童生徒の情報交換と授業公開を行う。</p>
--

保護者・地域へ理解・協力を求めること

<p>○家庭学習について「家庭学習のすすめ」を配布し、学級懇談や通信などで協力を呼びかける。</p> <p>○メディアコントロールの取組を進め、結果を伝えることで、各家庭での過ごし方について考えてもらう機会をつくる。</p> <p>○基本的な生活習慣の定着に向けて、生活習慣チェックカードの取組について理解と協力を求める。</p>
---